

【目指す姿】

学校・家庭・地域が連携した教育と子育て環境の充実

基本施策・施策区分体系図

4-01 学校教育の充実

- 4-01-01 確かな学力を身に付けるための教育の充実
- 4-01-02 豊かな心の育成
- 4-01-03 健やかな体の育成
- 4-01-04 教職員の資質・能力の総合的な向上
- 4-01-05 信頼される学校づくりの推進

4-02 社会教育の充実

- 4-02-01 生涯教育の充実
- 4-02-02 生涯スポーツの推進
- 4-02-03 芸術・文化活動の推進と歴史の伝承

4-03 教育環境の充実

- 4-03-01 安全・安心な教育環境の確保
- 4-03-02 児童生徒の安全対策の充実
- 4-03-03 教育環境の維持向上

4-04 子ども・子育て支援の充実

- 4-04-01 子ども・子育て
- 4-04-02 幼児教育・保育
- 4-04-03 幼児療育通園センター
- 4-04-04 青少年
- 4-04-05 ひとり親家庭等

4-01 学校教育の充実

視 点	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児教育、高等学校教育との連続性に配慮しつつ、小中9年間を見通して一貫した質の高い教育を提供すること ● 互いに認め合い、支え合う心を育むこと ● 望ましい運動習慣や食習慣を定着させること ● 教職員の資質・能力を総合的に向上すること ● 地域の教育力を積極的に取り入れた学校をつくること
------------	--

4-01-01 確かな学力を身に付けるための教育の充実

5年後の目指す姿

- 子ども一人ひとりの発達の段階を考慮した系統性と発展性のある学習カリキュラムが編成され、確かな学力の定着が図られています。

現 状 と 課 題

- 全国学力・学習状況調査における基礎的・基本的な知識や技能などを、実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など（活用）に関する問題の平均正答率が低い状況にあります。

前 期 の 方 向 性

- 幼児教育、高等学校教育との連続性に配慮しつつ、小中9年間を見通した一貫した考えに立った教育活動の充実を図っていきます。
- 子ども同士が互いに学び合う問題解決型の学習の充実など、指導の工夫・改善を図っていきます。
- 高度情報化やグローバル化の進展など変化の激しい社会の中で、ICTの特長を活用し、情報化社会に主体的に対応していく力を育むとともに、英語教育の充実に努め、国際的なコミュニケーション能力の向上を図っていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
全国学力・学習状況調査結果 (%)	30.0	現状以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100.0

4-01-02 豊かな心の育成

5年後の目指す姿

- 郷土に誇りを持ち、豊かな人間性と共生の力が育まれています。

現 状 と 課 題

- 学校教育全体を通して道徳的価値について、様々な側面や色々な方向から学ぶ道徳教育の充実が必要となっています。

4-01 学校教育の充実

前期の方向性

- 郷土の歴史・文化や自然などを学ぶ学習機会の充実に努めていきます。
- 道徳的価値について様々な側面や色々な方向から学ぶ道徳教育の充実や社会のルール等を進んで守ろうとする意識をゆっくりと養い育てるとともに、自分は相手の役に立つことができ、必要とされていると感じる感覚や最後までやり遂げたと感じる達成感を味わう教育活動の充実に努めていきます。
- 保護者や関係機関と連携しながら、子どもの心に寄り添った生徒指導の充実に努めていきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
いじめはどんな理由があってもいけな いことだと思う児童の割合（小学校）	(%) 98.7	現状 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	100.0
いじめはどんな理由があってもいけな いことだと思う生徒の割合（中学校）	(%) 94.4	現状 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	100.0

4-01-03 健やかな体の育成

5年後の目指す姿

- 子どもが自ら健康に関心を持ち、楽しさを実感しながら日常的に運動に親しんでいます。

現状と課題

- 子どもたちの体力向上のため、学校や家庭・地域と連携した運動やスポーツに親しむ機会の充実が必要となっています。

前期の方向性

- 子ども一人ひとりの体力等の実態を踏まえた、体育学習などの取り組みの充実や日常的に運動に親しむ環境づくりに努めていきます。
- 家庭や地域との連携を図りながら、食育の充実を図っていきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
体力・運動能力、運動習慣等調査結果	(%) 34.4	現状 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	100.0
学校給食地産地消率（金額割合）	(%) 40.66	40.7	40.8	40.9	41.0	41.1

4-01-04 教職員の資質・能力の総合的な向上

5年後の目指す姿

- 高度情報化やグローバル化の進展など、変化の激しい時代や社会が求める今日的な課題に応じた資質や能力を備えた教職員集団が形成されています。

4-01 学校教育の充実

現 状 と 課 題

- 高度情報化やグローバル化の進展など変化の激しい社会において、今日的な教育課題に応じた、教職員として必要な資質・能力の向上が求められています。

前 期 の 方 向 性

- 教職経験年数に応じた研修や、必要な知識・技術を習得する研修への参加を推進していきます。
- 指導技術向上のための校内研修や授業研修会を実施していきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
なし						

4-01-05 信頼される学校づくりの推進

5 年 後 の 目 指 す 姿

- 地域と一体となって、家庭や地域の声を活かした学校運営が行われています。

現 状 と 課 題

- 校長のリーダーシップのもと、チームとしての学校運営や地域の教育力を取り入れた学校運営が求められています。

前 期 の 方 向 性

- 教育課程を地域社会に開き、家庭や地域との信頼関係・協働体制を構築し、地域の教育力を積極的に取り入れた学校運営を推進していきます。
- 校長のリーダーシップのもと、学校運営を日常的に見直し、学校の組織や運営体制等の改善を図っていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
学校関係者評価調書を公表している学 校数	(校) 小3校 中1校	小全校 中全校	小全校 中全校	小全校 中全校	小全校 中全校	小全校 中全校

4-02 社会教育の充実

視 点

- 市民協働により、子どもから高齢者までの様々な学習ニーズに応える社会教育事業の推進と学習機会を拡充すること
- 子どもたちに基礎的な運動習慣が身につくよう生涯スポーツの基礎づくりに努めるとともに、身近な地域で誰もがスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の基盤をつくること
- 芸術・文化活動の促進と鑑賞機会の拡大、文化関係団体等を育成すること

4-02-01 生涯教育の充実

5年後の目指す姿

- 市民や社会のニーズに応じた学習機会や学習プログラムが充実し、市民や関係機関、行政との連携や社会教育施設では指定管理者との連携事業が進められるなど、地域に根差した「学び」の支援体制や世代間交流が促進し、地域のリーダーとなる人材が育成されています。

現 状 と 課 題

- 市民の生涯学習に対する関心を高め、幅広い学習メニューを実施するために、生涯学習リーダーバンクやあかしあ大学の活用など、学習環境の整備をさらに進めていくことが望まれています。
- 学習環境の拠点としての中央公民館や図書館などの社会教育施設においては、生涯学習活動をさらに活性化させるための取り組みが必要となっています。
- 子どもたちの体験学習など、ゼロ予算で行える事業メニューの工夫などにより、事業の充実に努めてきましたが、それらの事業を継続、充実するための体制づくりが必要となっています。
- 「社会教育委員の会議」については、社会教育全般における計画策定や毎年の実施事業に対する意見を述べてきましたが、今後においては、これまでの活動に加え、教育委員会からの諮問に対し、積極的な意見を述べていくことが求められています。

前 期 の 方 向 性

- 生涯学習リーダーバンク登録事業の充実と活用に努めるほか、社会教育施設を管理する指定管理者と連携を図りながら、サービス内容の見直しや施設環境の整備に努めていきます。
- 自然や文化に触れる体験学習などを通して、人と自然のつながりを考えることのできる人間形成や感受性を養う事業の実施に努めていきます。
- 生涯学習社会の実現を目指し、「社会教育委員の会議」では、これまでの活動を継続していくとともに、社会教育に関して教育委員会に対する助言や社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言や指導をするよう努めます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現 状	H29	H30	H31	H32	H33
市民一人当たりの公民館年間延利用回数	(回) 1.52	1.54	1.56	1.58	1.61	1.63
市民一人当たりの文化センター年間延利用回数	(回) 1.03	1.04	1.06	1.07	1.09	1.10
市民一人当たりの図書館年間延利用回数	(回) 1.00	1.01	1.03	1.04	1.06	1.07

4-02 社会教育の充実

4-02-02 生涯スポーツの推進

5年後の目指す姿

- 市民の誰もが目的にあったスポーツに親しみ、楽しむことができる環境が整い、地域の身近な施設が活用され、関係団体との連携による生涯スポーツに向けた環境やスポーツ振興と交流人口の拡大により、地域の活性化が図られています。

現状と課題

- NPO法人留萌体育協会や総合型地域スポーツクラブなどでは、各種スポーツ事業の実施に努めていますが、参加者は横ばい状態が続いています。
- 各施設の利用状況は、各年度により増減がありますが、全体として減少傾向にあります。
- 平成26年度から3年間の研究事業を行ったスポーツ合宿の誘致については、合宿誘致に向けた課題を整理しながら、可能性について方向性を見出していく必要があります。
- 温水プールは、小学校プール授業専用として一部再開し、小学校の夏季休業期間中を一般開放していますが、今後においても施設の利活用に努めていく必要があります。

前期の方向性

- NPO法人留萌体育協会や総合型地域スポーツクラブなどと連携し、市民ニーズをとらえた各種スポーツ事業の展開と既存施設の利活用に努めていきます。
- スポーツセンター利用率の増加に向けた事業の展開や施設の有効活用に努めていきます。
- スポーツ合宿誘致については、積極的な支援に努めます。
- 温水プールは、小学校プール授業専用として継続し、現在実施している一般開放については、利用者ニーズの把握をしつつ、施設の利活用に努めていきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
市民一人当たりのスポーツセンター年間延利用回数 (回)	1.68	1.70	1.72	1.75	1.77	1.80
スポーツ合宿による延宿泊数 (延泊)	89 (3団体)	150以上 (5団体)	150以上 (5団体)	150以上 (5団体)	150以上 (5団体)	150以上 (5団体)

4-02-03 芸術・文化活動の推進と歴史の伝承

5年後の目指す姿

- 文化関係団体等の育成、支援が図られているとともに、地域の様々な人材と連携し、専門知識の継承や芸術・文化に親しむ機会が拡大されながら、次世代の文化の担い手の育成につながっています。
- 市民の郷土学習の場や学習資源として、文化財の活用が図られています。

4-02 社会教育の充実

現 状 と 課 題

- 子どもたちの芸術鑑賞の機会を提供し、豊かな感性の成長を支援してきましたが、今後においても子どもたちのニーズを把握しながら演目を選定する必要があります。
- 市民団体が行う発表事業などに支援を実施してきましたが、新たな団体においても、活用しやすい制度への見直しが必要となっています。また、文化関係団体等においては担い手不足が課題となっています。
- 市民団体による音楽合宿の受け入れ等が進み、団体受入れのために環境整備や条件整理などを行ってきましたが、今後も多くの音楽合宿を受け入れるための支援が必要となっています。
- これまでも重要有形民俗文化財「留萌の鯉漁撈（旧佐賀家漁場）用具」、国指定史跡「旧留萌佐賀家漁場」の保存・保護に努めてきましたが、今後においても、適切な保存・保護と活用が必要です。

前 期 の 方 向 性

- 子どもたちへの芸術鑑賞機会の提供を継続するとともに、演目の選定には子どもたちの意見も反映させていきます。
- 市民団体による舞台芸術などの発表事業や文化活動事業などへの支援を継続し、新規団体も利用しやすい制度の見直しに努めるとともに、文化活動の担い手となる次世代の育成に努めます。
- 継続的な音楽合宿の受け入れのための支援などに努めていきます。
- 古文書等の歴史・文化の資料については、市民の文化的財産として適切な保存と活用に努めます。また、重要有形民俗文化財「留萌の鯉漁撈（旧佐賀家漁場）用具」、国指定史跡「旧留萌佐賀家漁場」の保存・保護に努めるとともに、市民の郷土学習の場や学習資源として活用に努めます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
市民一人当たりの文化センター年間延利用回数 (回)	1.03	1.04	1.06	1.07	1.09	1.10
音楽合宿による延宿泊数 (延泊)	486 (3団体)	1000以上 (10団体)	1000以上 (10団体)	1000以上 (10団体)	1000以上 (10団体)	1000以上 (10団体)
旧佐賀家漁場の視察団体数 (団体)	2団体	5団体 以上	5団体 以上	5団体 以上	5団体 以上	5団体 以上

4-03 教育環境の充実

視 点	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が安全で安心して学校生活を送ることができること ●生涯にわたり学習・文化・スポーツ活動に取り組むことができる、安全・安心で質の高い教育環境を整備すること ●児童生徒が登下校時に交通事故や犯罪に巻き込まれることがないように、地域ぐるみで通学路の安全確保に努めること ●子どもたちにとって望ましい教育環境を維持・向上させること
------------	---

4-03-01 安全・安心な教育環境の確保

5年後の目指す姿

- 児童生徒が安全で安心して学校生活を送ることができるよう、全ての学校施設の耐震化が図られ、また、学校施設や教職員住宅の老朽化対策が計画的に進められています。
- 学校給食を安定的に供給するための環境整備が計画的に進められています。
- 全ての利用者が利用しやすい社会教育施設となるよう、適切に維持・管理されています。

現 状 と 課 題

- 学校施設は、子どもたちが一日の大半を過ごす活動の場であるとともに、非常災害時には地域住民の避難場所としての役割も果たすことから、安全性の確保が最優先です。
- 学校施設や教職員住宅の老朽化等の課題に対し、中長期的な整備計画を策定し適正に維持・管理していくことが求められています。
- 社会教育施設(中央公民館、文化センター、スポーツセンター、勤労者体育センター、弓道場、温水プールふるも、神居岩スキー場、市立留萌図書館)については、全体的に老朽化が進んでおり、適切な維持・管理が求められています。

前 期 の 方 向 性

- 地震等の自然災害から児童生徒の安全・安心を確保するとともに、地域の避難所としての機能を担っていることから、学校施設の耐震化及び老朽化対策を計画的に進めていきます。
- 教職員住宅の老朽化対策を計画的に進めていきます。
- 安全・安心な食材で作る学校給食を安定的に供給するための環境整備を計画的に進めていきます。
- 社会教育施設の維持・管理計画を策定し、適切に施設の維持・管理を進めていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
小・中学校施設の耐震化率 (%)	94.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
小中学校の老朽化対策の実施 (校)	0	1	1	1	1	0
学校給食地産地消率(金額割合) (%)	40.66	40.7	40.8	40.9	41.0	41.1

4-03-02 児童生徒の安全対策の充実

5年後の目指す姿

- 地域ぐるみで子どもたちを見守ることにより、児童生徒が安心して登下校をしています。

4-03 教育環境の充実

現 状 と 課 題

- 全国的に児童生徒が登下校時に交通事故や犯罪に巻き込まれる痛ましい事件が後を絶たない中で、通学路の安全・安心の確保が求められています。

前 期 の 方 向 性

- PTAや地域住民の協力を得ながら、地域ぐるみで通学路の安全確保に努めていきます。
- 学校、道路管理者、警察等の関係機関による通学路の交通危険箇所の合同点検の実施や点検に基づく改善に向けた取り組みを進めていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
児童生徒の登下校時の交通事故発生件数	(件) 0	0	0	0	0	0

4-03-03 教育環境の維持向上

5 年 後 の 目 指 す 姿

- 児童生徒数が減少していく中であっても、子どもたちにとって望ましい教育環境の維持・向上が図られています。

現 状 と 課 題

- 児童生徒が減少していく中で、学校規模によるメリット・デメリットを十分に検証した学校配置の適正化が求められています。
- 経済的な問題や障がいなどを理由に、教育の機会が損なわれないような配慮が求められています。

前 期 の 方 向 性

- 学校規模によるメリット・デメリット等を検証しながら、学校配置の適正化の検討を進めていきます。
- 全ての児童生徒が安心して必要な力を身に付けていけるよう、経済的支援や障がいの特性に応じた学習環境の提供に努めていきます。

数 値 目 標

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
なし						

4-04 子ども・子育て支援の充実

視 点

- 子どもたちの夢・希望・笑顔で満ちあふれたまちにすること
- 子ども・子育て世帯が健康で豊かに生活できるまちにすること
- 仕事と子育ての両立を地域社会全体で応援するまちにすること
- 子どもたちが、心身ともに健康・健全に成長できるまちにすること

4-04-01 子ども・子育て

5年後の目指す姿

- 「留萌市子ども・子育て支援事業計画」に基づく子育て施策の推進により、全ての子どもたちが、郷土愛を育み、夢や希望、笑顔と活気に満ちあふれた生活を送り、地域社会全体で子育てを応援するまちになっています。

現 状 と 課 題

- 年少人口(0歳から14歳)の減少とともに、社会的支援の必要性の高い子どもや子育て世帯に対する迅速かつ適切な対応が課題となっています。
- 子どもたちの安全・安心な居場所づくりや子育て世帯が気軽に交流・相談できる環境づくりが課題となっています。

前 期 の 方 向 性

- 子育て支援センターを子ども・子育て支援の拠点と位置づけ、地域で子育てを応援する体制の整備を図っていきます。
- 子どもたちが健全な遊びを通して自主性・社会性・創造性を身に付けられるよう児童センターの運営を活性化していきます。
- 子どもたちの生活及び学習の場としての機能を高めるため、小学校の余裕教室を活用するなど留守家庭児童会の利用定員の拡大を図っていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
未就学児童一人当たりの子育て支援センター及び児童センター年間延利用回数	(回) 12.88	13.58	13.93	14.28	14.63	15.00
小・中学生一人当たりの子育て支援センター及び児童センター年間延利用回数	(回) 36.81	37.87	38.40	38.93	39.46	40.00

4-04-02 幼児教育・保育

5年後の目指す姿

- 「留萌市子ども・子育て支援事業計画」に基づく子育て施策の推進により、幼児教育・保育を希望する保護者の子どもたちが質の高い幼児教育・保育サービスを受けられる環境の充実が図られています。

4-04 子ども・子育て支援の充実

現 状 と 課 題

- 女性の社会進出や雇用環境の多様化により、低年齢児からの保育需要に対応できる環境整備が必要となっています。
- 支援を必要とする児童の保育など、多様化する保育ニーズへの対応が求められています。
- 幼児教育、保育及び地域の子育て支援の充実、質の向上を図るため、子ども・子育て支援新制度の推進が必要となっています。

前 期 の 方 向 性

- 「留萌市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、発達段階に応じた質の高い保育の提供に努めていきます。
- 障がい、疾病、虐待、貧困など社会的な支援の必要性が高い子どもやその家族に対する相談・情報の提供など総合的支援のため、関係機関の連携強化、情報共有体制の強化に努めていきます。
- 国の幼児教育無償化の推進に対応した、幼児教育を希望する保護者の経済的負担の軽減事業を継続していきます。
- 保護者の多様な幼児教育・保育ニーズに対応できるよう、子ども・子育て支援新制度の推進に努めていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現 状	H29	H30	H31	H32	H33
幼稚園入園児童割合 (%)	25.6	26.9	27.5	28.2	28.9	30.0
保育所入所児童割合 (%)	32.4	32.7	32.9	33.1	33.3	34.0

4-04-03 幼児療育通園センター

5 年 後 の 目 指 す 姿

- 心身に障がいや発達に遅れのある子どもが、基本的な生活習慣や集団生活に必要な適応力を身に付け、健全な生活を送っています。
- 療育体制が充実し、心身に障がいや発達に遅れのある子どもとその家族に対し、安定した療育環境が提供されています。

現 状 と 課 題

- 就学している子どもの放課後や長期休業期間の居場所として、放課後ディサービスの需要が高まっています。
- 対象となる子どもの増加により、心身に障がいや発達に遅れのある子どもの保護者及び関係機関からの相談業務が増加しています。

前 期 の 方 向 性

- 対象となる子どもの増加傾向は今後も続くことが予想されるため、きめ細かな療育指導や家族への適切な相談、支援を行っていきます。
- 安全・安心な療育環境を維持するため、地域や保護者と連携し心身に障がいや発達の遅れのある子どもを支えるとともに、施設や療育機器の充実を図っていきます。

4-04 子ども・子育て支援の充実

数 値 目 標		※現状：H27					
指 標 項 目		現状	H29	H30	H31	H32	H33
待機児童数	(人)	0	0	0	0	0	0

4-04-04 青少年

5年後の目指す姿

- 「留萌市子ども・子育て支援事業計画」に基づく施策を地域及び行政が一体となって推進し、青少年が地域の様々な活動に参加することによって、心身ともに健やかで、地域社会の一員としての自覚や、他人への思いやりの心と規範意識を持った子どもが育っています。

現 状 と 課 題

- 家庭をめぐる状況の変化により、保護者の子育てに対する不安の広がりなどによる家庭での教育力の低下や、青少年に対する地域との関わりの希薄化による、規範意識、協調性等の低下が課題となっています。
- 情報通信機器の普及によるインターネットトラブルの低年齢化が課題となっています。

前 期 の 方 向 性

- 青少年に関わる団体や地域と協働し、継続して各種事業を実施することにより、「青少年は地域から育む」という意識の浸透を図っていきます。
- 青少年が様々な人との関わりや体験を通して、健やかでたくましく心豊かな人間として育ち、いきいきと成長できるよう、地域で見守り、支え合うことができる環境づくりに努めていきます。

数 値 目 標		※現状：H27					
指 標 項 目		現状	H29	H30	H31	H32	H33
青少年健全事業の延参加者数	(人)	815	820	820	820	820	820

4-04-05 ひとり親家庭等

5年後の目指す姿

- 「留萌市子ども・子育て支援事業計画」に基づく子育て施策の推進により、ひとり親家庭等が経済的に安定し、自立した生活を送り、子どもが健やかに成長しています。

現 状 と 課 題

- ひとり親家庭等の経済基盤強化のための支援が求められています。
- 仕事と子育てとのバランスがとれた生活を送るための環境整備が求められています。

4-04 子ども・子育て支援の充実

前期の方向性

- 関係機関と連携し、子育てや家事と仕事の両立、子どもが健やかに成長できるよう、ひとり親家庭等の自立に向けた支援に努めていきます。
- ひとり親家庭等の様々な悩みなどに関する相談に対応するため、相談支援体制の充実を図っていきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
児童扶養手当受給者の就労割合 (%)	85.1	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0

